

霊の賜物の発見

◆霊の賜物に関する新約聖書の探究

- 第一部 もてなし、ローマ二二章
- 第二部 勧告、コリント第一・一二章
- 第三部 教え、コリント第一・一二章、エペソ四章
- 第四部 知識、殉教、見分ける力(洞察)、信仰
- 第五部 慈善、知恵、指導、牧会(羊を養う)
- 第六部 伝道、助け(奉仕)、使徒、寄付
- 第七部 行政管理、とりなし、外国伝道(宣教)、預言

著者 ロイ・C・ネイデン

(アンドリウス大学宗教教育部準教授)

発行所

世界総会チャーチ・ミニストリー部

翻訳・発行

セブンスデー・アドベンチスト教団

よきサマリヤ人?

「不適切な実験」と、「ヒューマン・ビヘイビア」誌はそれを呼びました。それは恐らく適切な評でありましょう。

プリンストン大学の二人の研究員が、神学校の生徒たちの献身の度を調査したのです。四〇名の若者たちが、同意なしにテープレコーダーにスピーチをするように依頼をうけました。テーマは牧師の職業的関心あるいはよきサマリヤ人というものでした。学生たちは、録音の機械とテクニシャンたちが待ち受けている別の建物へ歩いて行くよう言われました。学生は一人ずつ、研究者たちによって指示された一定の間をおいて最初の部屋を出ました。その建物の正面の出口のところまで別の研究者が学生たちに異なったさしずをしました。三分の一は、ゆっくり歩かないで、もつと急げと言われました。三分の一は、定刻通り部屋を出たと言われました。そして、三分の一は、早めだからゆっくり歩いていいと言われたのです。録音室へ行くようにという指示は、全員が同じように受けました。

近くの通路にはいると、学生たちは一様に、一人のみすば

らしい男の人を目撃しました。それは研究者たちの手で適当に変装させられた人でしたが、その人は、人が近づくと二度せきをして、うめき声をあげ、目を閉じてどっと地面に倒れました。

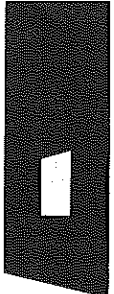
神学校の学生たちは、目の前にあるよきサマリヤ人状況というものに、どのような反応を示したのでしょうか。

六〇パーセントがそのまま通り過ぎたのです! 「よきサマリヤ人」について話すことになっていった学生たちの何人かは、急ぐあまり、倒れた人を文字通り踏み越えて行ったのです。

学生たちが話す予定になっていた主題は、彼らの行動に意味のある違いを与えませんでした。しかし、時間について知らされたことが興味深い結果を与えました。予定よりも早いと言われた人たちの半数以上(六三パーセント)が、足を止めて手をさしのべました。時間通りであると言われた人たちの半数足らず(四五パーセント)が、立ち止まって助けを申し出ました。しかし、遅れていると言われた人たちの中のわずか一〇パーセントしか、足元の「死にかけて放りだされている人」をあえて調べて見ることさえしなかったのです。

私たちはみな忙しいものです。しかし、私たちの何人かは、「生計を立てる」のに余りにも忙しくて、神が意図された生き方で「生きる」ことができずにいるのです。クリスチャン

は、忙し過ぎて助けの手や、励ましの言葉や、思慮深い贈り物をさしのべることができなくていいのでしょうか。私たちの周囲の人々に手をさしのべることこそ、霊の賜物に関するすべてなのです。



パウロは「コリント人へ」 愛の手紙を送った

ガイド第三部は、霊の賜物に関するパウロの重要な論評で結びました。パウロは、賜物を与えられた教会の、成功する働き秘訣を分かちたいと言いました。そして、一息入れる間もなく、愛の賛美を始めています。コリント人への第一の手紙第二三章を熟読してください。

一節「たとえわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである」。二節「たとえまた、わたしに預言する力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい」。三節「たとえまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分

のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である」。

四節「愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない」、五節「不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない」。六節「不義を喜ばないで真理を喜ぶ」。七節「そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える」。八節「愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう」。九節「なぜなら、わたしたちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない」。一〇節「全きものが来る時には、部分的なものはずたれる」。

一一節「わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった」。一二節「わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう」。一三節「このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望

と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である」。

聖書の三つの主要な霊の賜物の記事は愛の主題で結ばれています(ローマ二ノ九一六、コリント第一・一三ノ一一三、エペソ四ノ一五、一六)。このように愛は、パウロの霊の賜物の神学にとって欠くことのできない部分なのです。

エペソ人への手紙のテーマ

エペソ人への手紙におけるパウロのテーマは、一致です。第二章のなかでパウロは、ユダヤ人と異教徒のあいだの新しい関係を論じていますが、そこで彼は一致を強調しています。第三章は、神がすべてのクリスチャンに極めて自由に手に入らせて下さる力を強調しています。

「こういうわけで、わたしはひびきをかがめて、天上にあり地上にあって『父』と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。どうか父が、その栄光の富にしたがい、御霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強くして下さるように、また、信仰によって、キリストがあなたがたの心のうちに住み、あなたがたが愛に根ざし愛を基として生活することにより」(エペソ三ノ二四―一七)。

このような励ましをあたえたあとで、パウロは、教理からクリスチャンの義務へ、そしてさらに霊の賜物に関するテーマの解説へと移行していきます。中心的なメッセージはエペソ人への手紙四ノ七、八、一一―一六です。

七節「しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている」。八節「そこで、こう言われている、『彼は高いところに上った時、とりこを捕えて引き行き、人々に賜物を分け与えた』」。

一一節、一二節「そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てになった。それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ」、一三節「わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである」。

一四節「こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばされたりすることがなく」、一五節「愛にあつて真理を語り、あらゆる

点において成長し、かしらなるキリストに達するのである」。

一六節「また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれ部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちにて育てられていくのである」。

ローマ人への手紙とコリント人への手紙の中で、私たちは、一七の別々の賜物があげられているのを見出ししました。エペソ人への手紙は、さらに二つの新しい賜物を追加しています。

ローマ人への手紙

- 1 預言
- 2 奉仕
- 3 教え
- 4 勧め
- 5 寄付
- 6 指導
- 7 慈善

コリント人への手紙

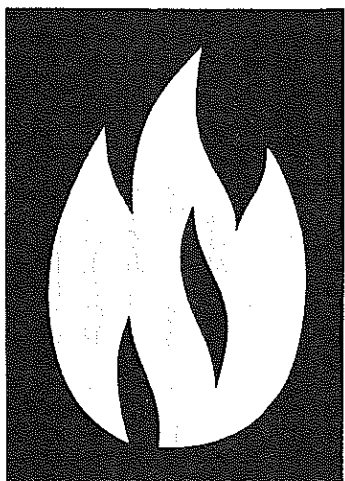
- 8 知恵
- 9 知識
- 10 信仰
- 11 いやし
- 12 奇跡
- 13 見分ける力(洞察)
- 14 異言
- 15 異言を解く力
- 16 使徒の職務
- 17 行政管理

- エペソ人への手紙
- 18 伝道
- 19 牧師職

霊の賜物の型

最初から、霊の賜物の十分満足のいく作業モデル(組織立った配列)に到着するのは困難です。すぐに縦型、あるいは階層的型を受け入れるように誘惑されるでしょう。

縦の階層的配列では、管理者がトーテム・ポールの頂点に位置し、各々の賜物はやや下位におかれます。しかし、これは聖書的な考えではありません。賜物は縦に等級づけられるものではなく、横に並べられるものなのです。言いかえれば、実際上、他の賜物よりも重要な賜物もなければ、他の賜物よ



りも重要でない賜物もありません。しかし、仕事によってはある賜物が他の賜物よりも適切であるということはあるはず。もしもだれか落胆している人がいて、その人の気分を晴らす必要があれば、知識の賜物を持つ人ではなく、勧めの賜物を持つ人を探して下さい。もしも教会がある問題で行き詰まったら、いやしの賜物を持つ人ではなく、知恵の賜物を持つ人をさがして下さい。そうすれば先へ進むことができます。

体のあらゆる部分が重要であるのとちょうど同じように、すべての賜物が重要であることを覚えて下さい。しかし、人間の体もキリストの体も、各々の成員がその与えられた守備範囲内で全力を尽くすとき、最もよく働くのです。賜物は、重要さの順に最上位から最下位まで並べられているのではなく、順不同で左から右へ並べられているものと考えて下さい。「横に並ぶ型」について考えるとき、問題はうまい具合に作りあいのとれた見方となるはずです。

デイスカッション

a コリント人への第一の手紙二章一節は、聖霊が賜物を分け与えられると述べています。エペソ人への手紙四章八節は、イエスが賜物を分け与えられると述べてい

ます。イエスご自身がこのことにかかわりあっておられることは、霊の賜物についての新約聖書の教えの神秘性を少なくし、救い主との個人的関係を増すのに役立ちますか。もしそうであれば、それはどんな違いでしょうか。もしそうでなければ、賜物の与え主について、なぜこのように異なる叙述があるのでしょうか。

b あなたの教会の教会員たちは、霊の賜物の強調によって、どんな実際的な方法で、より大きな一致感をもたらすことができるでしょうか。

c クリスチャンは、賜物を持つことと、それを用いることを恐れることとのあいだのジレンマを、どうやって解決したらいでしょうか。

2

教えの賜物

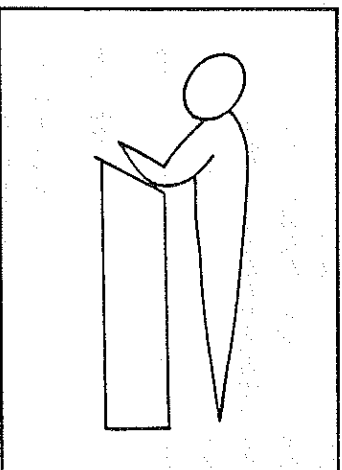
「わたしたちは……それぞれ異なった賜物を持っているので……教える者であれば教え、」（ローマ二ノ一六、七）。

1、原語の意味

新約聖書の中では、ギリシャ語のデイダスコは常に「教える」と訳されています。新約聖書の中で四〇回イエスに当てはめられている「主人」という語は、直訳すれば「教師」です。デイダスコの名詞形は、「教師」と「教義」の両方に訳されています。その賜物の新約的用い方は、「健全な教義」を教える者をさしているのです。

2、行為に表された教え

クリスチャンにとって、イエスとその使徒たちを第一に偉大な説教者と考えることは、珍しいことではありません。しかし、福音書や、使徒行伝や、エペソ人への手紙のいたると



ところに、私たちは絶え間ない教えの仕事を見ますが、説教はほんのたまにしか述べられていません。ペテロとヨハネがユダヤ人のリーダーたちに対する自分たちの行為に答えを出さなければならなかったとき、告発と警告が彼らの教えの中心となりました。「エルサレム中にあなたがたの教を、はんなきさせている」と非難者は嘆きました。（使徒行伝五ノ二八参照）いわゆる山上の垂訓でさえ、戸外の授業だということがわかります。なぜなら、聖なる記録はこう始まっているからです。「そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて言われた」（マタイ五ノ二）。

使徒行伝の中で、定期的な教科課程の教えの最もすばらしい例の一つは、一八章に記録されています。パウロは、コリ

ントにおける自分の働きを、ユダヤ教会の中でユダヤ人たちの間で始めました。しかし三か月後——その間に彼の働きはやや進歩したのですが——彼はテテオ・ユストの家の隣へ引っ越しました。そのより小さな教育環境の中で、彼は、コリント教会の設立につながる働きを始めたのです。彼は、「神の言葉を教え」て一八か月を過ごしました(使徒行伝一八ノ一一)。

次の章は、エペソにおけるパウロを描いています。その地で、パウロは、「ツラノの講堂で」教えながら二年間を過ごしたのです(使徒行伝一九ノ九)。そして、この教えの働きの結果として、「アジアに住んでいる者は、ユダヤ人もギリシヤ人も皆、主の言を聞いた」のです(使徒行伝一九ノ一〇)。それこそが、行為に表された教えの力なのです。

3、教えの賜物の五つの面

次にあげる聖句は、各々ティダスコの何らかの形を用いています。

a 一五世紀におけるのと同様に、現代も教えの賜物は、システムチックに長期間行われれば、より効果的である(使徒行伝一八ノ一一)。

b 教えの賜物は聖書に根拠を置き、主イエスに焦点を合わせるべきである(テモテ第一・三ノ二六、ヨハネ第二・九)。

c 教えの賜物を持つ者は、神の意志への献身が神の真理を理解する者の条件であることを理解する必要がある(ヨハネ七ノ一七)。

d 教えの賜物は、学ぶ者を円熟と霊的安全へ導く(コロサイ一ノ二八、テモテ第一・四ノ一六)。

e 教えの賜物を働かせることは、偉大な任務の達成をもたらす(マタイ二八ノ一九、二〇)。

4、定義

教え「理解することもできれば従うこともできて、教会員たちのあいだの霊的成長や一致を促進するような方法で、他の人々に霊的教えを分かち与える霊の賜物。」

(多くの信心深い男女が、聖書以外の事から教える「タレント」を有していて、教会関係の学校で非常に効果的に教え

ているということにも注目すべきです。しかしながら、前記の霊の賜物の定義には、聖書の教え以外の活動は含まれていません。なぜなら、教えの賜物は新約聖書の状況で考えられているからです。教えの賜物に対する別冊チェックリストの評価の得点が低いということは、聖書を教える賜物に恵まれている見込みが低いということであって、必ずしも他の領域においてもそうであるわけではありません。)

5、賜物の誤用

聖書の教師は次のような場合、真理を誤って示します。覚えの遅い生徒たちや、教師が知っていることを知らない人々に対していらいらするとき。人を動かさずにはおかない霊の力よりも、事実の方をより信頼するとき。自分たちの知識の蓄えを過信して、教課を忠実に準備するのをやめるようになったとき。

6、ディスカッション

a クリスチャンの教師のなかには、教会において、大きくて熱心なクラスを引きつける人たちがいます。他方、自分のクラスがすぐに減ってしまつて、閉鎖するか、新しい教師を決めなければならなくなる人もいます。その

b 資格のある教師が不足しているとき、教会の管理的立場にいる人は、どのようにクラスの数や、クラスの規模を決めるべきでしょうか。

c 「霊的に賜物を与えられている」教師が、バイブル・クラスの教師として失敗することがあり得るでしょうか。それはなぜでしょうか。

d 小さいクラスと大きいクラスの有利な点と不利な点をあげて下さい。どちらがより有利と思われるか？

7、教えの賜物の確認

もしもあなたがこれは自分の賜物かもしれないと思われたら、次にあげるいくつかの質問と示唆を考慮に入れて下さい。あなたは、教会からバイブル・クラスで教えることを求めら

れる一人ですか。あなたは、聖書の教課の概略をうまくまとめることが出来ますか。あなたは、聖書に関する質問に氣樂に答えられますか。あなたは、氣輕に授業の設定ができますか。あなたは、教会のバイブル・クラスで教えることを申し出たことがありますか。あなたは、自分の家でバイブル・クラスを始めようと思ったことがありますか。あなたは、質問に答えるとき聖書の原則を思い出すことができますか。あなたは、人々の前に立つこと、またクラスや会衆の前で聖書の話をするのが、比較的こわくありませんか。あなたは、重要なポイントを見分けることによって、討論に結論を下すことができますか？あなたが話すのを聞く人々は、あなたが、物事を理解しやすく、実生活で実行しやすいようにすることができますか。

予習

ガイド第四部が、四つの賜物「知識、殉教、見分ける力（洞察）、そして信仰」に関する定義と、創造的な実験に関する話し合いを展開するのを学んで下さい。
次にあげるのは、次回に提示されると思われるポイントです。

・ 私たちは皆、救われるという信仰を持たなければなりません。それでは、「信仰」は、どのような状態で靈の賜物と呼ばれ得るのでしょうか。

・ 殉教の賜物は、今日、私たちの文化や慣習と調和していますか。

・ 心の洞察力とは、何を意味しますか。

・ 知識の賜物の中には、どんな種類の知識がふくまれますか。